

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 2月15日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-038782

出 願 人

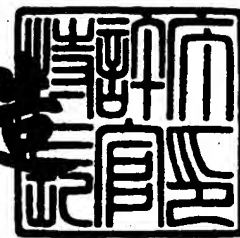
Applicant(s):

花王株式会社

2001年11月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3098880

【書類名】 特許願

【整理番号】 P00451302

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A61K 7/13

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2-1-3 花王株式会社研究所内

【氏名】 大鹿 正人

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2-1-3 花王株式会社研究所内

【氏名】 伊藤 隆司

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2-1-3 花王株式会社研究所内

【氏名】 西澤 栄一

【発明者】

【住所又は居所】 和歌山県和歌山市湊 1 3 3 4 花王株式会社研究所内

【氏名】 溝奥 隆司

【特許出願人】

【識別番号】 000000918

【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

【識別番号】 100068700

【弁理士】

【氏名又は名称】 有賀 三幸

【選任した代理人】

【識別番号】 100077562

【弁理士】

【氏名又は名称】 高野 登志雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100096736

【弁理士】

【氏名又は名称】 中嶋 俊夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100089048

【弁理士】

【氏名又は名称】 浅野 康隆

【選任した代理人】

【識別番号】 100101317

【弁理士】

【氏名又は名称】 的場 ひろみ

【選任した代理人】

【識別番号】 100117156

【弁理士】

【氏名又は名称】 村田 正樹

【選任した代理人】

【識別番号】 100111028

【弁理士】

【氏名又は名称】 山本 博人

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011752

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 染毛剤組成物

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 次の成分(A)及び(B)

(A) 酸性染料

(B) 5又は6員環のラクトン骨格に、炭素数2以上のアルキル基が置換した化合物

を含有する染毛剤組成物。

【請求項 2】 成分(B)が、 γ -ヘキサノラクトン又は γ -ヘプタノラクトンである請求項1記載の染毛剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、頭皮や皮膚への着色を生じることなく、毛髪への染色性に優れ、しかもシャンプーに対する堅牢性が良好な染毛剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】

浸透促進溶剤としてベンジルアルコール、ベンジルオキシエタノール、ラクトン等の有機溶剤を含有する酸性染毛剤（特開昭61-210023号公報、特開平7-101841号公報、特開平51-151341号公報等）は、毛髪への浸透性が良好とされている。しかし、ベンジルアルコールは、染料の浸透性は良好であるが、染色する際に同時に頭皮や肌を着色してしまうなどの問題点がある。また特開平51-151341号公報に示されているラクトン類は、皮膚染色性は低いが、染毛性がベンジルアルコールに比べると十分ではなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

従って、本発明は、皮膚への着色性が低く、毛髪への染色性に優れる染毛剤組成物を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、浸透溶剤として、炭素数 2 以上のアルキル基が置換した 5 又は 6 員環のラクトン化合物を使用すれば、上記要求を満たす酸性染毛剤が得られることを見出した。

【0005】

すなわち、本発明は、次の成分(A)及び(B)

(A) 酸性染料

(B) 5.又は 6 員環のラクトン骨格に、炭素数 2 以上のアルキル基が置換した化合物

を含有する染毛剤組成物を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】

本発明に用いられる成分(A)の酸性染料としては、水溶性酸性染料であれば特に制限されず、例えば赤色 2 号 (C.I.16185)、赤色 3 号 (C.I.45430)、赤色 10 2 号 (C.I.16255)、赤色 104 号の(1) (C.I.45410)、赤色 105 号の(1) (C.I.45440)、赤色 106 号 (C.I.45100)、黄色 4 号 (C.I.19140)、黄色 5 号 (C.I.15985)、緑色 3 号 (C.I.42053)、青色 1 号 (C.I.42090)、青色 2 号 (C.I.73015)、赤色 201 号 (C.I.15850)、赤色 227 号 (C.I.17200)、赤色 230 号の(1) (C.I.45380)、赤色 231 号 (C.I.45410)、赤色 232 号 (C.I.45440)、だいだい色 205 号 (C.I.15510)、だいだい色 207 号 (C.I.45425)、黄色 202 号の(1) (C.I.45350)、黄色 203 号 (C.I.47005)、緑色 201 号 (C.I.61570)、緑色 204 号 (C.I.59040)、緑色 205 号 (C.I.42095)、青色 202 号 (C.I.42052)、青色 205 号 (C.I.42090)、かっ色 201 号 (C.I.20170)、赤色 401 号 (C.I.45190)、赤色 502 号 (C.I.16155)、赤色 503 号 (C.I.16150)、赤色 504 号 (C.I.14700)、赤色 506 号 (C.I.15620)、だいだい色 402 号 (C.I.14600)、黄色 402 号 (C.I.18950)、黄色 403 号の(1) (C.I.10316)、黄色 406 号 (C.I.13065)、黄色 407 号 (C.I.18820)、緑色 401 号 (C.I.10020)、緑色 402 号 (C.I.42085)、紫色 401 号 (C.I.60730)、黒色 401 号 (C.I.20470)、アシッドブラック 52 (C.I.15711)、アシッドブルー 1 (C.I.42045)、アシッドブルー 3 (C.I.42051)、アシッドブルー 62 (C.I.62045)、アシッ

ドブラウン13 (C.I.10410)、アシッドグリーン50 (C.I.44090)、アシッドオレンジ3 (C.I.10385)、アシッドオレンジ6 (C.I.14270)、アシッドレッド14 (C.I.14720)、アシッドレッド35 (C.I.18065)、アシッドレッド73 (C.I.27290)、アシッドレッド184 (C.I.15685)、ブリリアントブラック1 (C.I.28440) 等が挙げられる。

【 0 0 0 7 】

これらの酸性染料は、1種以上を用いることができ、その含有量は、十分な染色効果と手肌の汚れの少なさの点から、全組成中に0.2～5重量%が好ましく、更には0.2～4重量%、特に0.2～3重量%が好ましい。

【 0 0 0 8 】

本発明に用いられる成分(B)のラクトン化合物は、ラクトン骨格上に置換基として炭素数2以上のアルキル基を有するものであり、好ましくは炭素数2～5のアルキル基、特に好ましくは炭素数2～5の直鎖アルキル基を有するものである。また、このアルキル基の置換位置は、 γ -ラクトンの場合には γ 位、 δ -ラクトンの場合には δ 位（すなわちヘテロ酸素原子の隣接メチレン）が好ましい。ラクトン(1)の具体例としては、 γ -ヘキサノラクトン、 γ -ヘプタノラクトン、 γ -オクタノラクトン、 γ -ノナラクトン、 δ -ヘプタノラクトン等が挙げられ、なかでも、毛髪染色性とラクトンの安定性の点から、 γ -ラクトン、特に γ -ヘキサノラクトン、 γ -ヘプタノラクトンが好ましい。

【 0 0 0 9 】

成分(B)は、1種以上を用いることができ、その含有量は、毛髪染色性と皮膚への着色防止性の点、及び皮膚を始めとする生体組織への悪影響や組成物の粘度を始めとする各種物性の不安定化を防止する点から、全組成中に1～20重量%が好ましく、更には2～15重量%、特に4～10重量%が好ましい。

【 0 0 1 0 】

本発明の染毛剤組成物は、酸成分による毛髪、頭皮及び手肌の荒れの防止、酸性染料の浸透促進効果の点から、pH2.0～6.0であることが好ましく、更にはpH2.0～5.0、特にpH2.5～4.0が好ましい。

【 0 0 1 1 】

また、本発明の染毛剤組成物には、更に染色性を向上させる目的で、成分(C)としてベンジルオキシエタノール、ベンジルアルコール、フェノキシエタノール、フェノキシイソプロパノール、ベンジルグリセロール、N-ベンジルホルムアミド、シンナミルアルコール、フェネチルアルコール、p-アニシルアルコール、p-メチルベンジルアルコール、メチルカルビトール、エチルカルビトール及びプロピルカルビトールから選ばれる1種以上の有機溶剤を含有させることができる。これらのうち、芳香族アルコール類縁体が好ましく、特に、ベンジルオキシエタノール、ベンジルアルコールが好ましい。これら成分(C)の含有量は、毛髪に対する染色性向上効果及び皮膚に対する着色防止効果の点から、全組成中に0~10重量%、更に0.01~10重量%、特に0.1~5重量%が好ましい。

【 0 0 1 2 】

本発明の染毛剤組成物には、使用時のたれ落ち防止、頭皮などへの汚着防止の目的で、成分(D)として水溶性高分子を含有させることができる。水溶性高分子としては、例えばアラビアガム、カラギーナン、カラヤガム、トラガカントガム、キャロブガム、クインスシード(マルメロ)、カゼイン、デキストリン、ゼラチン、ペクチン酸ナトリウム、アルギン酸ナトリウム、メチルセルロース、エチルセルロース、カルボキシメチルセルロース(CMC)、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルアルコール(PVA)、ポリビニルメチルエーテル(PVM)、ポリビニルピロリドン(PVP)、ポリアクリル酸ナトリウム、ローカストビーンガム、グアーガム、タマリントガム、ジアルキルジメチルアンモニウム硫酸セルロース、キサンタンガム、変性キサンタンガム、ウェランガム、ラボールガム、ジェランガム、カルボキシビニルポリマー、アクリル酸/メタクリル酸エステル共重合体、メチルビニルエーテル/無水マレイン酸共重合体の1,9-デカジエンによる部分架橋物、ポリエチレングリコール、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ベントナイト等が挙げられる。これらのうち、特にヒドロキシエチルセルロース、キサンタンガム、変性キサンタンガムが好ましい。これらの水溶性高分子は1種以上を用いることができ、その含有量は、全組成中に0.1~10重量%、特に0.5~5重量%が好ましい。

【 0 0 1 3 】

また、本発明の染毛剤組成物には、成分(B)及び(D)の溶解性を高める目的で、低級アルコール又はポリオールを含有させることができる。具体的には、炭素数2～4のもの、例えばエタノール、2-プロパノール、1-プロパノール、1-ブタノール、エチレングリコール、プロピレングリコール、イソプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン等が挙げられる。これらの低級アルコール又はポリオールは1種以上を用いることができ、その含有量は、全組成中に0.1～30重量%、特に0.1～20重量%が好ましい。

【0014】

更に、本発明の染毛剤組成物には、前記成分のほか、通常の化粧品等に使用し得る成分、例えば界面活性剤、カチオン性重合体、油性成分、シリコーン誘導体、香料、防腐剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、殺菌剤、噴射剤等を、目的に応じて適宜配合することができ、通常の方法に従って製造することができる。

【0015】

本発明の染毛剤組成物を使用するには、例えば、くしやブラシに適量を取り、頭髮に塗布し、塗布後1～30分間程度放置してから洗い流せばよい。

【0016】

【実施例】

実施例1

表1及び2に示す配合組成の酸性染毛剤を製造し、各種試験を行った。

(1) 山羊毛への染色性の評価方法

染毛剤組成物1gを白い山羊毛(1g)のトレスに均一に塗布した後、30℃で15分間放置した。その後水洗し、シャンプーで2回洗浄し、リンス処理を1回行った後、乾燥させた。このトレスについて、20名の評価者により山羊毛への染色性を評価し、以下の基準で判定した。

【0017】

判定基準：

◎：山羊毛への染色性が良いと評価した者が80%以上。

○：山羊毛への染色性が良いと評価した者が50～80%未満。

△：山羊毛への染色性が良いと評価した者が20～50%未満。

×：山羊毛への染色性が良いと評価した者が20%未満。

【0018】

(2) 皮膚への染色のし難さ及び洗浄性

ヒト前腕部10cm²あたり1gの染毛剤組成物を均一に塗布した後、30℃で15分間放置した。その後水洗し、表面に付着した染毛剤組成物を十分に除去した後、乾燥させた。この前腕部について、20名の評価者により皮膚への染色のし難さを評価し、以下の基準で判定した。

更に、この前腕部を石鹼により往復50回こすり洗いした後、乾燥させた。この前腕部について、20名の評価者により洗浄性を評価し、同じく以下の基準で判定した。

【0019】

判定基準：

◎：皮膚への染色が全く気にならないと評価した者が80%以上。

○：皮膚への染色が全く気にならないと評価した者が50～80%未満。

△：皮膚への染色が全く気にならないと評価した者が20～50%未満。

×：皮膚への染色が全く気にならないと評価した者が20%未満。

【0020】

【表 1】

	本発明品				
	1	2	3	4	5
黒色401号	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
紫色401号	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
だいたい色205号	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ベンジルアルコール					3
γ -ヘキサノラクトン	5	10			5
γ -ヘプタノラクトン			5		
δ -ヘプタノラクトン				3	
エタノール	5	5	5	5	5
乳酸	5	5	5	5	5
苛性ソーダ	pH 3 に調整				
ヒドロキシエチルセルロース	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
香料	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
精製水	バランス				
山羊毛への染色性	○	◎	◎	○	◎
皮膚への染色し難さ	◎	○	○	○	○
皮膚の洗浄性	◎	◎	◎	◎	◎

【0021】

【表 2】

	比較品						
	1	2	3	4	5	6	7
黒色401号	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
紫色401号	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
だいたい色205号	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ベンジルアルコール	5						
γ -ブチロラクトン		5	10				
γ -バレロラクトン				5	10		
α -メチル- γ -ブチロラクトン						5	10
エタノール	5	5	5	5	5	5	5
乳酸	5	5	5	5	5	5	5
苛性ソーダ	pH 3 に調整						
ヒドロキシエチルセルロース	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
香料	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
精製水	バランス						
山羊毛への染色性	○	×	×	×	×	×	×
皮膚への染色し難さ	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎
皮膚の洗浄性	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【 0 0 2 2 】

【発明の効果】

本発明染毛剤組成物は、皮膚への着色を生じることなく、毛髪の染色性に優れ、シャンプーに対する堅牢性が良好である。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 頭皮や皮膚への着色を生じることなく、毛髪への染色性に優れる
染毛剤組成物の提供。

【解決手段】 次の成分(A)及び(B)

(A) 酸性染料

(B) 5又は6員環のラクトン骨格に、炭素数2以上のアルキル基が置換した化
合物
を含有する染毛剤組成物。

【選択図】 なし

特 2001-038782

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-038782
受付番号	50100211750
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0094
作成日	平成13年 2月16日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成13年 2月15日
-------	-------------

次頁無

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000000918]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
氏 名 花王株式会社